30222
ko 11

東亜新秩序建設と山東

興亜院華北連絡部青島出張所編

302.22
Ko.11

0000464000

0000464-000

３０２．２２－Ｋｏ１１ウ

東亜新秩序建設と山東

興亜院華北連絡部青島出張所

昭和１５

AAB

1009
E
39

昭和十五年七月

東亞新秩序建設と山東

（以印刷代謄寫）

興亞院華北連絡部青島出張所

302.22
KO·11

目次

序……一
第一、緒論……三
第二、資源……四
第三、大呑吐港　青島……九
第四、港と背後地を繫ぐ新動脈……一三
第五、新動脈と新背後地……一八
第六、結言……二九
參考資料
第一表　青島港の港灣設備及能力……二一
第二表　最近七ヶ年入港船舶隻數及噸數……二五
第三表　青島港輸出入貿易額……二六
第四表　天津、青島兩港諸掛總額比額……二七

發行所寄贈本

Ⓔ 1009
39

序

現在日本の要求する重要資源中第一に指を屈せらるるものは石炭である。生産力擴充に血眼になつてゐる日本に石炭饑饉程痛切に叫ばれてゐる聲はない。私は日本に居つた時北支の石炭と言へば山西省の石炭とばかり思ひ込んで居た。又現に內地から陸續と視察に來る方々も話をして見ると殆ど一樣に其の樣に考へて居られる樣である。だが當地に着任して以來山東の話を聞き自分でも視察し、又部下を派遣して調査せしめた結果と現下の時局とを併せ考へて見て、石炭卽山西と考へて居ることは時局の急に卽應するものでないと信ずる樣になつた。卽ち物資が存在するといふことと、此の供給といふことの間には餘りに多數の問題があるからである。

これがこのパンフレットを書かせる動機となつたのである。換言すれば聖戰の實を速に結ばせる爲には急速なる經濟開發が行はれなければならないのであるが、それが爲には適正な重點主義に基き何を措いても先づ山東開發から着手しなければならぬと信ずる樣

になつたのである。私は青島に職を奉ずる謂はば准地元人といふ關係から所謂我田引水と見られて所論を割引せられることを虞れるのであるが、本パンフレットは最も忠實に山東竝に青島の實情を紹介せんとするものであることをお斷りして置きたい。

興亞院華北連絡部青島出張所長
柴田彌一郎

第一、緒論

山東省の重要性はその廣大なる地域が地理的に好適な條件を持ち石炭、鐵其の他樣々の地下資源に富み農畜産の盛んなこと及び其等の資源、特産物の海港への運輸が至便で比較的少い經費資材を以て現下の時局に對じ容易に甚大の寄與をなし得るところにある。

試みに新東亞地圖(卷末地圖參照)を開き、青島を中心に六百粁半徑の圓を描けば、西は河北平野を抱擁して大行山脈東麓、京漢線近くに至り、北は北京、天津の線を經て、遼東半島を圏内に收め、東は朝鮮西海岸に出て仁川、京城、木浦に至り、南は上海、南京の線を結び、中原を背後にし、海は渤海と黄海に、陸は遼東、朝鮮の兩半島に包圍された形となり、所謂日滿支を通ずる東西南北兩線の中央に位する事實を明確にすることが出來る。

更に圖上北は天津より西南上海に一條の直線を引けば山東省は黄河と揚子江の廣大なデルタ地域の中央より、支那海に突出し、之を渤海黄海に二分する數百粁の大棧橋となつ

てゐる。是實に我が大陸發展の爲に與へられた天與の大棧橋であつて、青島はとりも直さずその最もよき繫船場といふべきである。

ここに重ねて强調したいのは山東獨特の强味が資源とその供給可能の兩建にあることである。いま石炭だけに例をとつて見ても大同にある三百億瓲の炭も海岸線までの運輸關係から直ぐには對日供給が困難な事情であるのに反し、山東省の炭はその埋藏量に於ては大同の十分の一に過ぎないが、然もなほ毎年二千萬瓲を採掘しても悠に百五十年間の需要を滿たすに足り、青島港、連雲港への距離もまた僅に二百乃至三百粁に過ぎない。

ここに於てか東亞新秩序建設の一大據點としての山東省を再認識、否新認識すべき時は到來してゐる。

以下この觀點から姑く山東省の諸樣相を記述して見よう。

第二、資　源

山東省といへば日本の一府縣位に見られ勝であるが實は北海道、四國、九州を一くるめ

にしてやつと匹敵し得るほどに廣大な地域である。詳しくいへば面積五萬六千平方哩、その耕地面積は六百九十萬町歩あり、日本の全耕地面積六百五十萬町歩よりも遙に廣い青島特別市の面積だけでも大體兵庫縣程度の廣さである。

人口は三千八百萬で滿洲の全人口を遙に凌駕し勞力資源の豐富さを示してゐる。所謂山東苦力の名を以て呼ばるるのは此の餘剩勞力に外ならぬ。

さて山東省の豐富な資源であるが、先づ第一に擧ぐべきは石炭である。

省內の石炭埋藏量は約三十億瓲、炭質は無煙炭、半無煙炭及强粘結性の瀝青炭に大別され、その炭田の分布地域は膠濟沿線、津浦沿線、及中部山岳地域に亘つてゐる。

そのうちの膠濟沿線の炭田は淄川、博山、章邱及坊子であるが、その埋藏量は十六億瓲で、炭質は何れも無煙炭乃至半無煙炭が多い。また津浦沿線の炭田は大汶口、柳泉及中興炭田でその埋藏量は約五億瓲、炭質はいづれも强粘結性の瀝青炭である。目下日本及滿洲國に製鐵用コークス炭として輸出されてゐるのが之である。次いで山岳地域に分布する炭田は顏莊、沂州、萊蕪及び新泰でその埋藏量九億三千萬瓲と稱せられ、いづれも强

粘結性の瀝青炭でコークス炭として最適のものであるが、未だ大規模な採掘は行はれず、只僅かに土民の舊式な方法によつて採掘せられてゐるに過ぎない。

山東半島の東部一帶に分布してゐる金鑛はその埋藏量の端倪すべからざるところから金のお化けとまでいはれ、肅清工作の進捗と共に華々しく世紀の脚光を浴びてせり上つたもので同地一帶の埋藏量は一千數百萬瓲と稱せられ、その鑛石の含金率も十萬分の一といふ素晴しさである。

又時代の立役者である鐵鑛は金嶺鎮、利國、七寶山、安城方面の山岳地帶に分布し、推定埋藏量二千五百萬乃至三千萬瓲といはれてゐるがまだ開發の緒にはついてゐない。然し品質は四、五十%から六、七十%に及び之を附近に產出する石炭で製煉するようになれば、時局に貢獻するところは蓋し莫大なものがあるであらう。

セメントは生產擴充、新建設の途上不可缺の物資であるに拘らず、供給の不足には內外地を通じ困却して居る、然るにこの原料たる良質石灰石が淄川、博山等の炭田に膚接して無限に存在するのであるから、此の地域に於けるセメント工場の設置は當然考慮せられなければならないことである。

この外の鑛產資源には礬土頁岩、螢石、重晶石、雲母、滑石等が數へられる、この內にも礬土頁岩は淄川、博山及中部山岳地帶の炭田をおほひ、その埋藏量は十億瓲と稱せられてゐる。

次いで重要な資源は膠州灣及び東部、北部海岸地域一帶から產出される鹽である。その年產額は四十五萬瓲で、此の內工業鹽として內地及び朝鮮向に輸出される數量は廿四、五萬瓲に達してゐる。目下增產進行中の鹽田が完成すれば年產八十五萬乃至九十萬瓲となりこれから國內消費量を控除しても略六十萬瓲の鹽を日本に送ることが出來る。

水產物は黃海渤海就中山東角の豐富なる漁場を控へ其の水揚高二、五〇〇萬圓を下らず。

農產物の主要なるものは棉花、落花生（落花生油）大豆、葉煙草及果實等である。

山東に於ける棉花は靑島紡績が原棉確保の上から熱心にその栽培を指導奬勵したことからより夙に山東棉の聲價高く、事變前に於ける棉花の作付面積は四百六十萬畝、（一畝＝一六七坪）その產額百七十萬擔（一擔＝五〇瓩）に上つてゐた。今後之が增產及び改良の指

導よろしきを得れば北支紡績は素より、日本紡績の原料棉花として大いに歡迎されるであらう。

落花生は山東省に移植されてからまだ百年にも達しない程であるが、地質や氣温が栽培に適してゐるので省内一帶に普及し、現在その年產額は七十五萬瓲、作付面積は四百萬畝に及んでゐる。此等の落花生はいづれも中南支及び第三國に輸出され、外貨獲得に重大な役割を演じてゐる。

葉煙草は山東の氣候風土に適し英米トラストが過去三十餘年に亘つて品種改良增產に努めて來た結果優良なる茗葉山東米葉の產地となり年產一二〇〇萬貫を超へ今後の指導と相俟つて北支重要輸移出品として洋々たる前途を約束されてゐる。

また山東省は早くから支那唯一の輸出果樹栽培地として知られてゐるが、その著名なるものは梨、棗、柿、桃其の他で、年產總額四四萬擔に上つてゐる。

其の他農產物として小麥、玉蜀黍、粟、甘藷、豆類等が數へられるが此等の作物はすべて農民自體の主要食糧に充てられ輸出品としての產出はなかつた。然し大豆の如きは年

產額三四二七萬担（滿洲國の約半分）にも達してゐるのであるから今後の指導次第では有力なる輸出品ともなり得るであらう。

畜產物としては牛、豚、鷄等があり、これ等は生肉として輸出されるばかりでなく、その副產物たる豚毛や加工卵は第三國向の重要輸出品となつてゐる。就中、牛は總數二二〇萬頭を算し山東牛の名を以て廣くその聲價を認められてゐる。

青島は右の樣に豐富な資源と廣大な市場を直接の背後地として持つてゐるので、今後各種の資源開發、增產改良の進捗と共に、加速度的にその重要性が顯現せられなければならないものである。

第三、大呑吐港　青島

北支の港灣には秦皇島、天津、龍口、芝罘、威海衞、青島の六開港場と連雲港の七港があるが、北支開發に關して論議される場合、その呑吐港として問題になるのは天津、青島及連雲港の三港である。

天津港は津浦、京山兩鐵道の交叉點にあり、白河に臨み、運河其の他の水運にも惠まれ、北支政治の中心北京にも近く背後地も廣大で從來最も重きを置かれてゐた。

斯の如く惠まれたる天津が新時代の要求に應ずる爲塘沽新港としていち早く新設擴張に着手されたことは寔に尤もなことで、この工事が完成すれば同港は昔日の面影を一新して、眞に名實兼備の良港となり其の生彩を發揮するであらう。

然しながら冬季の氷結、白河の宿命的な泥土堆積といふ根本的難問があるので、之が解決には相當の長年月を要するであらうと思はれるし、又資材の供給といふ點などを併せ考へると、現下の要求に直ぐに應じ得ないのは甚だ殘念なことである。

次に連雲港であるが、同港は支那唯一の横斷鐵道隴海線の終點にある。その背後地の大なることに於て、石炭その他の重要資源に於て文字通りの要衝であつて、舊國民政府が夙に築港計畫を樹立し、連雲港の出現を企圖してゐたことは宜なる哉といふべきである。

今や新中國建設に當り同港の占むる役割は益々重要であるから、その改良擴張はなるべく速に着手せられなければならないけれども、同港は港灣としての水域せまく、地上面積も狹隘であり、且海底地質が泥土であるためなどの關係で、之が築港には塘沽新港と同等或はそれ以上の資材と年月を要するであらうから、早急の實現には餘程の無理が伴ふのではなからうか。

青島港はその始め獨逸が之を占領して以來、北支に於ける第二の香港たらしめんとして今日の基礎を築いたものである。その位置に於て、又港灣としての自然的、人爲的な條件に於て實によく結びついてゐる。又北支各港の中、本邦諸港とも最も近く、門司との距離は五百六十六浬で、天津、門司間よりも二百六十浬近い、此處では水魔の危險もなければ、泥砂の惱みもなく、冬期と雖も比較的温暖で凍結の憂ひもない。

青島港は大港と小港よりなり、大港は專ら外洋船の利用に、小港は近海沿岸を航行し、その方面の物資を集散する戎克及び小型汽船の利用に當てられてゐる。

大港はその港内水面積百二十萬坪を有し、東西北の三方は高さ四、八米、長さ二、九九〇米防波堤で圍繞されてゐる。第一より第五までの埠頭繫船壁は大は一萬二千瓲級より小は二千瓲級迄合計二十九隻約十七萬瓲の船舶を同時に繫船し得るのである。

上屋倉庫は合計二十四棟、建坪四五、六六四平方米、貨物收容能力は二六、七二六瓲、野積は石炭十四萬瓲、鹽十四萬瓲、其他七六、六三一瓲合計三八三、三五七瓲の保管能力を有してゐる。

而して現在青島港の有する呑吐能力は公稱四百萬瓲であるが、新事態に對應する爲五ヶ年計畫を立て、目下その第一期計畫として昨年度來これが改修に着手してゐる、之が完成の曉には約六百萬瓲以上の呑吐能力を有することとなり、更に第二期計畫として約一〇〇〇萬瓲に擴張を豫定されて居る、尙その附近には數千萬瓲の呑吐能力築造の餘地を殘してゐるのである。

右の如く港灣施設の完備してゐることは埠頭諸掛りに例を取つて見ても、天津港では雜貨一瓲當り二圓九十八錢なるに對し、青島港は一圓十六錢であつて、著しく低率である北支が一單位となつて對日滿貿易は勿論、對第三國貿易にも進展しければならない時に際會し、國際港青島の使命は今後益々重大性を帶びることとなるわけである。

第四、港と背後地を繫ぐ新動脈

青島港はその港灣としての好條件によつて、識者には認められつつあるが、奥地との連絡は僅か膠濟鐵道一本に過ぎず、その輸送能力も三百五十萬瓲を出でなかつた點が最大難點とされて來た。

奥地との連絡のため、交通網が完備すれば、青島が大陸の最重要基地となることは何人も異論はないであらう。北支の治安漸く明朗化せんとしつつある今日、その經濟開發の當面の最重要問題はまづ交通機關の整備である。卽ち鐵道問題に主力を注ぎ、之を根據として北支の資源開發に向はねばならない。

以下北支資源開發の重要性よりみて、青島を中心とする左の運輸機關の改善建設を緊要とする。

(一)膠濟鐵道の單線强化

現有單線の改良强化によつて(重機關車の配車、退避線の整備、驛間距離の調整、

停車場有效長の延伸、給炭給水信號設備の改善、レールの強化等）從來の貨物輸送能力たる年三百五十萬瓲より七百五十萬瓲程度に迄增加し得る。

（二）膠濟鐵路の延長線（濟豐線）

濟南を起點として津浦線に沿うて黃河の鐵橋を渡り、晏城に於て分岐西進し、東昌、龍王廟、豐樂鎭（彰德の北）間二百六十粁、支線は東昌、臨淸間五十粁、龍王廟、道口鎭間百五十粁、之によつて黃河西岸流域に連る山東、河北、河南の開發は期して待つべく、此の線は山西の中腹無限の大炭田に直接に連ることは知つて置かねばならない。

（三）高密、濟寧線の敷設（百八十粁）

膠濟鐵路高密より莒州、蒙陰を通り津浦線兗州に出るもので三百八十粁、支線として蒙陰、新泰、大汶口八十粁、之によつて重要資源として殘されてゐる新泰炭及び該方面の資源開發に資するわけである。

（四）濟寧、蘭封線（百八十粁）の新設

（五）莒縣、徐州線（二百五十粁）の新設

（六）膠濟鐵道の複線化

本線は當分單一線强化を目標として進むべきも將來は複線となるべきこと當然である。

以上の如き膠濟線を中心とする鐵道計畫の實現によつて、京漢、隴海鐵道と膠濟鐵道とは必然的に一體系をなし、青島港は山西、河南陝西の資源を收め得べく、無限の背後市場は青島を中心とする一聯の安定點に到達し、日本の勢力は最短距離青島を通じ力强く西進し得るものと信ずるのである。

陸上水路

「青濟運河」

現在僅かに小淸河を中心として濟南、羊角溝を結ぶ山東省中樞と渤海灣の連絡線を見るのみであるが、昨年來提唱されてゐる青濟運河（青島、濟南間）豐濟運河（豐樂鎭、濟南間）の二つの新運河開鑿計畫が實現すれば、京漢線と膠州灣とは水路によつ

て東西に結ぶ交通路が出現し、山西大炭田の資源搬出に一大機軸を呈することになるのである。

濟南地方に於ける小清河水源の特殊性と、青島地方に於ける膠萊陷落地との二大要素は、この運河開鑿案の眼目であつて、その水源は泰山山脈より大規模の地下伏流となり濟南附近に出て湧出するもので、概算一日百四十二萬瓲强の水量を湧出する計算となつてゐる。

開鑿する行路は小清河の水流を博興附近より略ぼ廣饒、青光の間を東西の新運河に導き、更らに南下して亭口集附近にて北濟河に連ね、舊膠青運河に疎通して膠州灣に入る。開鑿延長約一五〇粁內外、既水運河區延長約一九〇粁を合する時は約四四〇粁に達する。

「豐濟運河」

其の源をなす漳河は土行山脈より發する最大の水流で、京漢線豐樂鎭より漳河によつて東行し衞河に合し、南北大運河の合流點たる臨清から東へ開鑿して高唐、齊

河を經て小清河に疏水せんとするものである。この新運河開鑿地區延長約一二〇粁、既水路延長約一八〇粁を合する時は約三〇〇粁となり、青濟運河と合せて總延長七四〇粁の一大水路となるものである。

自動車路

青島を中心とする長途自動車路は事變前に於て相當の發達を見てゐた。現在は治安關係で一部未回復のものもあるが、漸次治安の回復と共に舊來の自動車路線の全面的補修も進められ、鐵路、バス、トラックの圓滑なる連絡が自動車路線計畫として着々實行に移されてゐる。

航空路

青島を中間に福岡ー北京線、蚌に大連ー上海線が現に運行され旅客運輸、通信のスピードアップが計られてゐるが、尙青島、濟南線も近く實現の運びに至る筈である。

第五、新動脈と新背後地

新規鐵道が開通することとなれば、從來山東省西南部、河南省北境地域及山西省東南境一帶に過ぎなかつた青島港の背後地は、更に擴張せられて山東省は勿論、江蘇、河南省の北部、河北省の南部及山西省の南部大半より陝西省に迄達し、其の抱擁人口は七千萬、耕地面積は二億七千萬畝、農産物資源は三千萬瓲以上に及び其の前途は眞に洋々たるものである。

然らば前記各鐵道の新設擴充に依つて青島港に蒐集し得る物資は大約幾何となるか。概算的の數字であるが極めて内輪に見積つたものを擧げても次の通りである。

	東行（青島へ）	西行（青島より）
濟豐線	四〇萬瓲	二〇萬瓲
高蘭線	二〇〇萬瓲	一〇〇萬瓲
膠濟線	八六〇萬瓲	一二〇萬瓲
其の他	二〇八萬瓲	二二三萬瓲
東行計	一、三〇八萬瓲	一、三三三萬瓲
西行計	二六〇萬瓲	
合計	一、五六八萬瓲	一、五九九萬瓲

之に鹽六〇萬瓲と連雲港よりの四〇萬瓲の貨物を加算すれば、青島港に蒐集される貨物數量は大體一、六五八萬瓲より一、六九九萬瓲に達することとなる譯である。

右の内石炭が七八〇萬瓲（膠濟線四〇〇萬瓲、濟彰線五〇萬瓲、高蘭線一三〇萬瓲其の他二〇〇萬瓲）で約半數を占め東行、西行の比率は東行の八三%に對し西行一七%となり、其の差はひどいやうであるが將來奥地農村の購買力增加を見込めば東行、西行合せて約二千萬瓲以上となるであらう。

第六、結　言

以上、山東省の地理的優位、其の豐富なる資源と之が供給の至便なること、青島が大呑

吐港となり得ること、青島と背後地とを繫ぐ新動派建設の必要及新動脈建設による背後地の擴大等主として産業、經濟、資源乃至自然地理學的觀點より論述したのであるが、由來山東は日支政治文化の上からも亦切ることの出來ぬ深い關係にある、今次事變のことは申す迄もなく、近くは大正三年歐洲大戰參加に當り尊い皇軍の犧牲を拂つて西歐侵略の手より此の地を救つたことや同十二年山東還附に至る迄の八年間の皇國の統治、昭和二、三年權益擁護の爲の出兵等山東の自由解放と保全繁榮に對する我國の犧牲と努力とは言語に絶するのである、斯くして我々をして山東に特異且つ强度の期待をかけ此の地域こそ眞に日支渾一互助共榮の特別地域として發展すべく運命づけられてゐると信ぜしむる樣になつたのである。

要するに此の小論文は山東省が東亞新秩序建設の上に如何に基地として重要性を有するかに關し、新らしき時の推移より物の見方を改め青島港を認識せらるべき期待を以て其の要點のみを陳述したものである。

參考資料

第一表

青島港の港灣設備及能力

一、大港

(一)港口幅員　三六九米

(二)防波堤　總延長二、九九〇米、高サ四、八米
東、西、北の三方を圍繞し、其の包括する水面積は約三九六萬平方米(約一二〇萬坪)

(三)港内水深　平均最干潮面下四、七米乃至九、五米
干滿の差三、六五米

(四)繫船岸壁　總延長四、四七九米
各埠頭の延長及使用狀況次の通り

第一埠頭	北側	七〇〇米	朝鮮定期、旅客、普通貨物船、	
第二埠頭	南側	四八〇米	内地大連、上海、定期旅客船パース	
第二埠頭	北側	六二〇米	普通貨物船、木材類	
〃	突端	一〇〇米	青島連雲港定期	
第三埠頭	南側	四四五米	野積向貨物船、石炭木材類	
〃	突端	一〇〇米	〃	
〃	北側	五九三米	〃	
第四埠頭	南側	一七〇米	危險品撒油	
〃	突端	三一米	〃	
第五埠頭		九五〇米	石炭、鹽	

(五)ベイシン幅員

第一埠頭—第二埠頭	約一六五米	
第二埠頭—第三埠頭	約一六〇米	
第三埠頭—第四埠頭	約一六〇米	

(六)繫船能力

全繫留區二九バースを最も理想的に活用せば大小船舶を合せ三二隻を同時に繫留し、計算上約四万瓲の荷役可能なり

(七)給水設備及能力

第一埠頭	給水栓	七ヶ所	第二埠頭	給水栓	九ヶ所
第三埠頭	〃	一四ヶ所	第四埠頭	〃	二ヶ所
第五埠頭	〃	五ヶ所			

毎時各船給水能力　約二三立方米

(八)貨物保管設備及能力

貯炭場	面積	一八〇、〇〇〇平方米	貯炭能力		一四萬屯
鹽堆積場	〃	三五、五一六 〃	堆積能力		一四萬屯
普通貨物野積場	〃	一二七、七一八 〃	總收容力		七六、六三一屯

上屋八棟　〃　二五、八〇七　〃　〃　一五、〇四九屯

倉庫一六棟　營業面積一九、八五七平方米　總收容力　一一、六七七屯

(九)荷役設備

浮動式起重機二基(三五噸、二二噸)及固定電氣起重機一基(一五〇噸)軌上クレイン一基(四噸)の設備ありしも、今次事變に依り悉く破壞せられたり

二、小港

(一)概說

小港は沿岸貿易に從事する輪船(小型汽船)民船(戎克)の出入港として築港せられたるものにして本港を中心とする中國沿岸との物資交流は盛に行はれ青島繁榮の培養港となる

(二)海上設備

防波堤延長五六八米、港口幅員一〇〇米、水面積三四萬八千平方米(約一〇萬坪、水深最低干潮面下六米なるも平均三米內外、荷揚岸壁二、四五五米

(三)陸上設備

構內面積約七萬平方米、荷揚場(斜面)延長二、四五五米、荷役地約一五、三〇〇平方米、假置地約二五、九〇〇平方米、賃貸地四四、〇九三平方米、寄託倉庫一棟、面積約一六、八〇〇平方米

第二表

最近七ヶ年入港船舶隻數及噸數

	隻數	登簿噸數
昭和八年	一、九五七隻	三、三七一、四四九噸
昭和九年	二、〇五二〃	三、五三八、四八三〃
昭和十年	二、一三七〃	三、七一〇、四四〇〃
昭和十一年	二、五九九〃	三、八四七、七七七〃
昭和十二年	一、六八〇〃	三、〇一三、五七五〃

昭和十三年　一、〇四五〃　一、七八二、五二三〃

昭和十四年　一、五〇八〃　二、四九六、八八九〃

（青島埠頭株式會社調査）

第三表

青島港輸出入貿易額

品名	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年
輸入	三四、一九〇、三八〇元（金單位）	二一、九〇七、一〇二元（金單位）	二〇、〇八六、六八八元（金單位）	四八、一九九、一九五元（金單位）
輸出	五一、五三三、一四九元	五八、〇三八、六九四元	三一、四四五、四六八元	五六、〇一〇、〇八七元
移入	三三、七五〇、八三二元	三六、三四三、〇三七元	二八、三八八、二一四元	五五、八五二、三三七元
移出	九五、五六七、七〇三元	八八、五一六、六四三元	三六、三六七、一〇五元	七六、五五七、七六九元

（青島日本商工會議所調査）

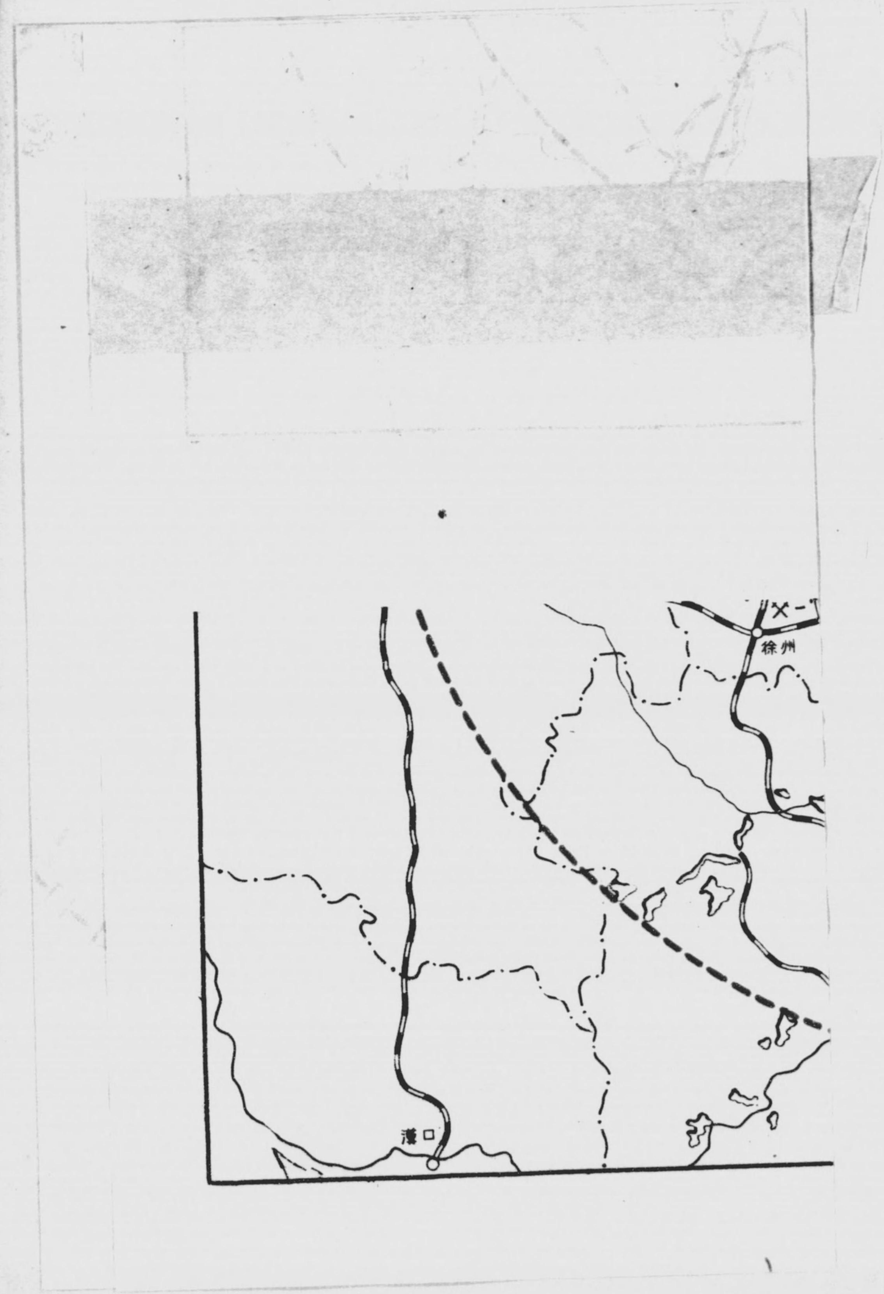
第四表

天津、青島兩港諸掛總額比較

一、本船塘沽止艀天津迄遡航ノ際貨物一瓲當リ諸掛

種別	天津港	青島港
(一)瓲税（每一航海）	四、三錢	ナシ
(二)入津税	一〇、三八	ナシ
(三)領事館手數料	〇、三三	〇、三錢三
(四)水先料（非强制）	四、九四（强制）	一、〇〇
(五)繫船料（塘沽二日）	四、〇〇（三日間）	七、〇〇
(六)天津艀繫船料	一、六七	ナシ
(七)艀賃	一五〇、〇〇	ナシ
(八)艀荷役賃	四五、〇〇	ナシ
(九)艀曳船用小蒸汽賃	二五、〇〇	ナシ
(十)本船押曳船賃	ナシ	〇、五三
(十一)バンド料	七、五〇	ナシ
(十二)積卸料	四五、〇〇	二七、〇〇

1009 Ⓔ 39



(十三)埠頭税		〇、一五	ナシ
(十四)埠頭料		ナシ	八〇、〇〇
合計		二九八、三〇錢	一一六、〇六錢

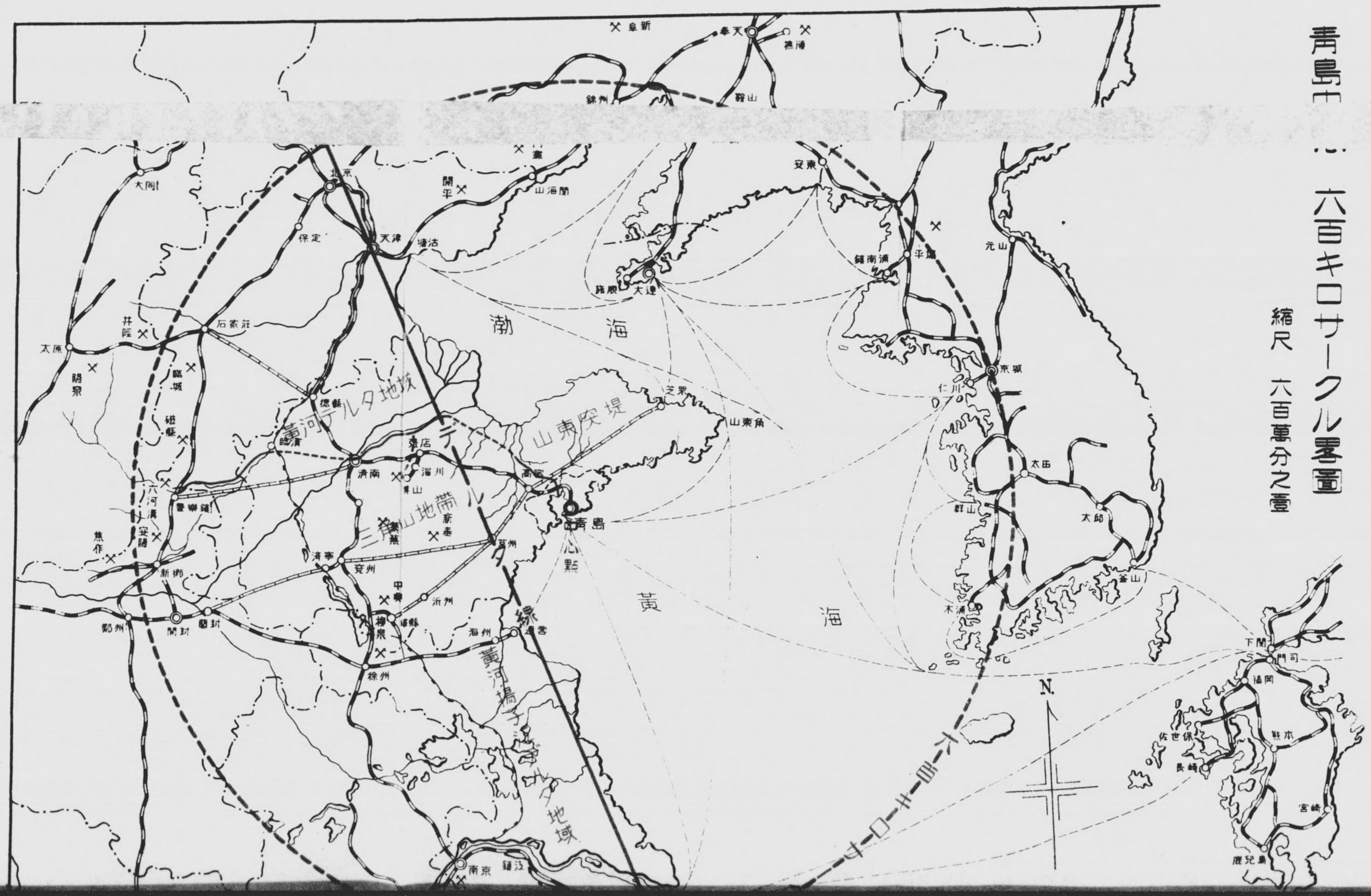
二、本船天津迄遡航ノ場合貨物一瓲當リ

種別	天津港	青島港
(一)瓲税	四、三三錢	ナシ
(二)入津税	一〇、三八	ナシ
(三)領事館手數料	〇、三三	〇、三三錢
(四)水先料(非強制)	四、九四(強制)	一〇、〇〇
(五)繫船料(三日間)	五、〇〇(三日間)	七、〇〇
(六)押曳船	ナシ(入出各一)	〇、五三
(七)バンド料	七、五〇	ナシ
(八)積卸料	四五、〇〇	二七、〇〇
(九)埠頭税	〇、一五	ナシ
(十)埠頭料	ナシ	八〇、〇〇錢
合計	七七、六三錢	一一六、〇六

(青島埠頭株式會社調査)

青島中心 六百キロサークル圖

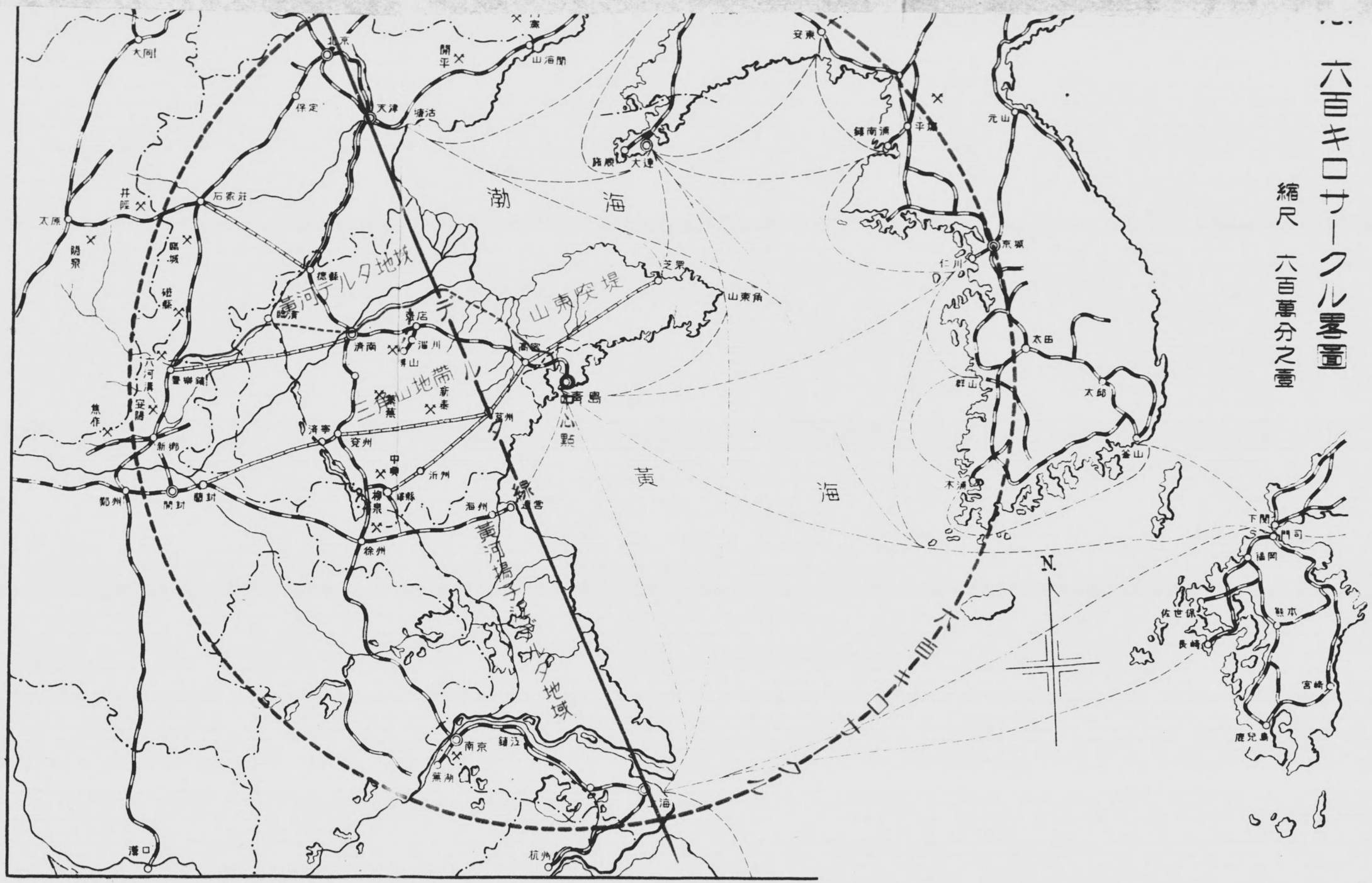
縮尺 六百萬分之壹



(青島埠頭株式會社調)

六百キロサークル圖

縮尺　六百萬分之壹



（青島埠頭株式會社調査）

11

600
63

1009
E
39